

新善光寺 寺報 北 縁

2024年5月 Vol. 55

ほくえん



特集

「続・松尾師に聞く五重相伝」

総本山知恩院御影堂前にて

じょうどしゅうかいしゅう けいさん
浄土宗開宗 850 年慶讃
ぎよき えいたいしどう
御忌・永代祠堂法要のご案内

ご参列いただけます。

6月16日(日) スケジュール

- 午後1時～ 合葬墓前にて法要
(納骨されている全精霊位様をご回向します)
- 午後1時45分～ 講話(本堂にて)
- 午後2時30分～ 法要(本堂にて)



本堂でおこなう講話・法要につきましては YouTube にてライブ配信もおこないます。 YouTube

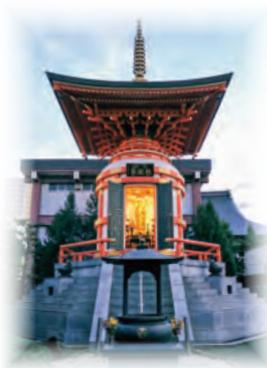
毎年6月の第三日曜日に、御忌法要と永代祠堂法要をおつとめしています。御忌とは、法然上人のご命日に浄土宗の源流である上人に思いを寄せ、私たち自身がお念仏申し、人生の目的地であるお浄土に自身の花を咲かせるべく、その根を養い育てていく行事です。本来、ご命日は1月25日ですが、本州の総・大本山等では4月に、当山においては札幌の気候にあわせ過ぎしやすい季節である6月につとめております。

また、併せてつとめられる永代祠堂法要は、当山が永い代にわたりお堂に亡き人をおまつりすること、つまり、永代にわたりご供養することを顕す行事です。

さらに、本年は法然上人が浄土宗を開かれてから850年の勝縁の年です。承安5年(1175)春、浄土の御教えを見出された法然上人。その真実の教えが、今も私たちを潤しています。総本山知恩院や大本山増上寺など各本山でも、この教えを慶讃する法要をおこなっておりまして、新善光寺でも皆様と一緒に、その喜びをかみしめつつ、お念仏の声を高くするおつとめとしたく存じます。

新善光寺では随時、永代祠堂を受け付けております。

永代祠堂 一霊位様 二十万円



〈永代供養合葬墓〉
ご納骨された後
は、お寺で管理
いたします

講 話



だいとうじ 住職 おおた かんりゆう
大阪大通寺 太田 寛隆 師

「〈来年開催予定〉五重について②

二十五菩薩来迎図も交じえて」

〈進呈〉

法要に参詣いただいた各家様に浄土宗開宗 850 年を記念し、コラボした京都の伝統菓子の八ッ橋をお渡しします。



昨年に引き続き新善光寺住職のいとこである太田寛隆師が、コテコテの大阪弁で皆様の前でお話をいたします。

「五重相伝」についてよりわかりやすく、丁寧にお伝えします。



〈特別展示〉

新善光寺所蔵の法然上人絵伝を、この6月16日に一日限りで展示します。



希望者に「五重相伝のすすめ」を進呈！

昨年、この法要にご参列いただいた方にはお渡しした冊子「五重相伝のすすめ」ですが、ご希望の方にお送りします。

浄土宗の奥義を伝える「五重」について、わかりやすく書かれています。アンケートハガキにご希望の旨をお書きいただければと思います。



五重相伝について④

新善光寺では来年の6月に五重相伝を40年以上ぶりに開催しようと思っております。そこで昨年よりこの「ほくえん」で、浄土宗で最高の法要である五重相伝について説明しております。

南無阿弥陀仏のお念仏の真髓を体と心で体得し、味わっていただくのがこの五重相伝です。受けられた方のほとんどは「受けて良かった」とおっしゃられ、中には「人生観が変わった」という方もおられると聞いています。

新善光寺では過去2回開催しており、両方を経験されている松尾師に前は昭和28年に開かれた五重相伝について聞かせていただきましたが、今回は昭和56年のことを中心に聞きました。

—写真を見ると多くの方が受けられていますね。この時は1回目の時とは違い、皆さん通われていたんですか？

ええ、あと確かこの時はミニ五重で3日間だったかな、本来は5日間だよ。

—そうですね、この時は役割的には大変でしたか？

我々はそこまででもなくて、役は組内寺院（他の寺院）がやっていたので。1回目は狭い中でやって、この時は広いところでやったからよかったですよ。

—総代さんとか婦人会など色々な方が受けられたのですか？

そうそう、あと私の妻も受けてね。

—奥様は受けてよかったとおっしゃっていましたか？

いやあ、わからんね（笑）

—他に受けた方はどうでしたか？

まあ昔の方がお寺との結び付きが強かったからね、皆さん良かったって言ってたかな。

生前戒名みたいな形にしたら今回は多く集まるんじゃない？

—実際に戒名「〇譽〇〇」が授与されますからね。そこを全面に押ししていこうかなと思っています。

今回は大規模にやるの？

—多く来てくれるといいのですが…。

集めるの大変だよ。案内と月参りの時に一生懸命に伝えるのがいいんじゃない





左側が松尾師、右側が田中師（昭和56年）



い。生前戒名希望される方も多いだろうから。あとこの時の名簿を見てご両親が受けられている方に勧めてみたら？

——はい！ご助言ありがとうございます。

でも1回目でお話しして下さった椎尾台下は素晴らしかったね。目が不自由だったけど「五重の書」というのを開いて、しっかりとやっていたからね。

——今回は前回みたいに朝からというのをやめて、午後からにして、また椅子とテーブルも用意して少しでも受けていただきやすくしようと思っています。

いいことだね。あと受けた方は女性が多かったね。1回目の五重の時はお腰が曲がっていた方もおられてね。そこまでして受けられていたから、やっぱり五重っていいものだね。

準備が大変だね。しばらくこういうしっかりしたものが無かったから、久しぶりにいいんじゃない？

——この時は新善光寺には松尾さんとどなたが？

田中さん（中央区の玄松寺の前住職）、今井さん（豊平区の善道寺の前住職）、あと依田っていたかな？なんせ私が一番下っばで（笑）

——ところで松尾さんは何歳で新善光寺に入られたんですか？

私？昭和23年に入ったから、13歳！あの頃の寺は周りもそうだったけど貧乏で大変だったよ。

でも火事のあと、本堂ができてからはお参りも多かったよ。

——その時は皆さん自転車でお参りに？

うん、一番最初に中央寺さんがバイクの時は、我々は自転車、そして向こうさんが自動車の時はバイク（笑）私はバイクだったね。昔は柳の木が7、8本あって、火事の時はそれが火を防いで向かい側は大丈夫だったね。

そして昔ここはススキノの離れ小島みたいなところで不便だったね。屋台がずらっと並んでいたね。

今回の五重相伝は来年のいつやるの？

——6月の予定です。

生きているかわからん（笑）

——絶対、変わっていませんから（笑）是非その時はよろしくお願いしますね！



仏さまのおはなし ⑨

前回までは浄土宗のご本尊である「阿弥陀如来」についてお話ししてきました。今回は「大日如来」です。大日如来は弘法大師空海が開宗した「真言宗」のご本尊です。北縁47号では、大日如来のご利益を「現世安穩 所願成就」と記しましたが、どのような仏さまなのかお話ししていきましょう。

◆大日如来

大日如来は梵語（サンスクリット：古いインドの言葉）で「マハーヴァイローチャナ（摩訶毘盧遮那と漢訳）」と言います。摩訶は「大きい、勝れた」という言葉で、毘盧遮那は「光輝く者」という言葉です。「毘盧遮那」といえば奈良の大仏さま（毘盧遮那仏）を思い出す方がいると思います。その毘盧遮那仏のさらに「大きく、勝れた」仏さまという事になります。毘盧遮那仏は經典によると「仏法の真理そのもの」と位置づけられていますので、大日如来も同じ意味のお名前の仏さまとなります。

大日如来は密教の主尊であり、大日如来によって六大（地・水・火・風・空・識）と呼ばれる宇宙に遍満する六つの本体的要素が働き説法を行っていると言われています。衆生の苦しみの闇を智慧の光で照らして取り除くと言われ、あらゆる如来や菩薩は大日如来が姿を変えたものであり、あらゆる仏の根源であるという位置づけになっています。

密教では、このような大日如来の教えを言葉で表現するのが困難であるとして、その真理の世界を「曼荼羅」で表現しています。曼荼羅とは、仏さまの悟った境地や宇宙の真理を示す方法として、仏・菩薩などを体系的に図示したものです。

余談ですが、ロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平選手が高校生の時に書いていた「目標達成シート」は通称「マンダラチャート」と言われるものですが、これは「曼荼羅」をモデルにした図を利用した思考方です。

◆密教の曼荼羅

仏教では「悟りの境地そのもの」ことを「法身」と表現します。「法身」は色も形のないものとされますが、大日如来は「法身」でありながら説法を行うとされます。そんな大日如来の真理の世界は曼荼羅で表現されています。「悟りの世界」を「胎蔵界」、「智慧の世界」を「金剛界」という曼荼羅で示します。（図1）

「胎蔵界曼荼羅」は仏の慈悲を、「金剛界曼荼羅」は仏の智慧を表しています。



図1 胎藏界曼荼羅（左）と金剛界曼荼羅（右）

◆大日如来像を奉る名刹

①円成寺 大日如来坐像（奈良県 国宝・運慶作）

後白河法皇が寄進されたと言われる多宝塔の本尊。密教の根本仏で、智拳印を結んだ金剛界の大日如来です。鎌倉時代の仏師、運慶青年期の作であり、自筆の墨書銘をもつ最初期の作として、日本彫刻史上画期的な意義を持つ尊像。

②金剛寺 木造大日如来坐像（大阪府 国宝・平安時代）

密教の図像でも特殊な形式と考えられる尊勝曼荼羅を、大日如来、不動明王（鎌倉時代）、降三世明王（鎌倉時代）の一組であらわしている。三体がそろうまで約五十年という歳月がかかった。平成 29（2017）年 3 月 10 日、国宝に指定。

③東寺 立体曼荼羅（京都府 大日如来像-重文）

密教を伝え広めるため境内の中心に建立された「講堂」。その堂内にて教えを視覚的に表した羯磨曼荼羅（立体曼荼羅）は、如来、菩薩、明王、そして天部の二十一尊の仏さまで構成され弘法大師空海の教えを語り続けている。

『源氏物語』が千年読み続けられる所以

最近の日曜日の午後8時は、平安期に想いを馳せる楽しいひとときを過ごしています。紫式部によって書かれた『源氏物語』は、千年の長きにわたり読み続けられ、今もなお私たちの心を打ちます。近現代には、谷崎潤一郎氏・円地文子氏・瀬戸内寂聴師らが、『源氏物語』の現代語訳という偉業をなすとげています。なぜ、この物語は千年もの間、色あせることなく読み続けられているのでしょうか。

岡本かの子氏は、昭和10年に『浄土』という雑誌に「法然上人への思慕」と題する寄稿の中で、次のように指摘しています。「私は近頃、紫式部の信仰を調べる必要があって平安朝の浄土思想を探ってみた。この偉大な女流文学者は晩年阿弥陀仏の信仰により安心立命を得て西方往生を期した。その事は式部自身、日記の中に記してあるから間違いはなく、且、晩年のみならずずっと前から浄土思想に深く涵養^{かんよう}されるところがあったために、あの絶美な芸術的情緒が潤されたであろうこともまた、想到するに難くはない。」(一部仮名遣い等変更)

『源氏物語』は恋多き物語ですが、その恋を織りなすには、それに関わる人々の苦悩や悲嘆が必ずともないます。その苦悩や悲嘆は、現世^{げんぜ}つまりこの世・今生きている世界を視野にするだけでは、解決・決着することができず、自分の命が終わった後の世(後世^{こうせ}・後生^{こうじょう})や自身が生まれる前の世界のことを鳥瞰してはじめて、腑に落ちることができるのではないのでしょうか。

どんなに時代が変わろうとも、私たちは恋をし、人を愛します。そして、時に病んだり、刻一刻と老いて、必ずこの世とお別れする日がやってきます。そんな私たちの苦しみ悲しみが多様な登場人物によって、光源氏(光る君・源氏の君)の一生のみならず、その子である薫^{かおる}の君が登場するにいたる長編にわたり、重層的に綴られているのが『源氏物語』

です。この物語に描かれる苦悩や悲嘆を、我が身のそれと重ねつつ、答えの出ない問いを自問自答するからこそ、『源氏』がこうして千年の間読まれているのだと感じます。

〈文：立花 俊輔〉



『源氏物語』の舞台となった京都御所

特別展「法然と極楽浄土」をみてきました



上野の駅を下り、さつきの花が咲く公園を横目に、目指すは東京国立博物館で開催されている「法然と極楽浄土」の展示会場に私、立花は意気揚々として行ってきました。今年は法然上人が浄土宗を開かれて850年の勝縁の年で、それを記念して開催されています。

まず、会場に入ると出迎えてくださっているように、奈良の當麻寺からお越しになった「法然上人坐像」と対面します。14世紀の作とされ、後ろに僧綱領がみられ、上人在世当時のおもかげを感じます。さらに会場を進むと、修理を終えた国宝「早来迎」（知恩院蔵）のお姿が。修理をする前にも、この来迎図を拝見したことがありますが、一段と鮮やかになった印象を受けました。特に、山肌に咲く桜の花が鮮明になり、これからも末永く伝えられ、浄土の御教えを喜ぶ人々がこの絵像を拝していただければ幸いです。

次に第2会場へ行くと、とてもユーモラスな絵巻物に出会います。江戸時代に書かれた「贈円光大師号絵詞」です。元禄10年（1697）、法然上人に対し東山帝より「円光大師」の諡を賜りました。そのお祝いに駆けつけた老若男女が可愛らしいタッチで描かれています。朱傘をかざされたお導師、法要を彩る天童、東帯を着た勅使、顔を赤らめた酔っぱらい、じゃれ合う子供たち、見物の旅の僧、集まった人々になにやら物を売る商魂たくましい者、駕籠に乗った女性（名のある方か）、喧嘩騒ぎ等々…。心ある者も心なき者も、共に法然上人ゆかりの地でありお念仏の道場・知恩院に集っている様子が、いきいきと描写されています。



最後に、四国は讃岐の国、法然寺よりお江戸へ出張されている「仏涅槃群像」が展示会に有終の美を飾ります。このお釈迦さまには、高松でもお会いしたことがあります。今回はまた違った趣きで配置されておりました。10月には京の都へ、来年は大宰府へと、遊行の旅が続きます。



まだまだ紹介しきれないこの展示会ですが、どの品々を拝しても、浄土の御教え・お念仏の御法が名もない無数の人々によって脈々と伝えられてきた証であると感じます。そして、今を生きる私たちお念仏者が浄土の御教えを喜び行じていく益々の機縁になればと、思いつつ…。

〈文：立花 俊輔〉

寺院紹介～番外編

廬山寺 (ろざんじ・京都)

今回は現在放映されている NHK 大河ドラマ「光る君へ」の主人公である紫式部の邸宅跡である廬山寺を紹介します。

場所は前回紹介した清浄華院のすぐ隣で京都御所の東にあります。

宗派は天台圓浄宗で本尊は阿弥陀三尊になり、天慶元年(938)、延暦寺中興の祖、元三大師が開いたのが起こりです。その後寛元3年(1245)に法然上人に帰依した覚諭により復興され、天台、密教、律宗、浄土の四宗兼学の寺院となり、洛中の比叡山ともいわれていたようです。応仁の乱で焼け、天正13年(1585)に現在地に移ってきました。

現在、寺院があるところに紫式部の邸宅があり、源氏物語や紫式部日記が執筆されたということで、平安時代当時の庭園をモチーフにした源氏庭があり、6～9月の時期には紫色の桔梗の花が綺麗に咲いています。

オリジナルの御朱印帳(写真1)も有名で、表紙には源氏物語の一場面が描かれており、なんとも雅な作りです。

また、隣の清浄華院では「光る君へ」に合わせ、特別御朱印(写真2)を授与されています。その御朱印は藤原道長の最も有名な歌が書かれています。

さらに6月23日まですぐ近くにある京都市歴史資料館で「京都と源氏物語」という展覧会が開かれています。

どうぞ、平安の雅な時代に思いを馳せて、お参りしてみてくださいはいかがでしょうか。



写真1

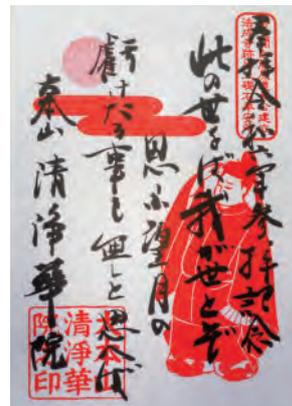


写真2

廬山寺 京都市上京区寺町通広小路上る北之辺町 397

—お檀家タウンページ〜ともいき訪問②④—

かね又 村山商店

明治創業の老舗の米店

今回は老舗のお米屋「村山商店」様に伺い、常務取締役の村山雄亮さんにお話を聞かせていただきました。村山家様には代々新善光寺の総代をお願いしており、各種法要には必ずご参拝いただくお宅でもあります。

創業は明治23年(1890)で、元々は上村漢方堂薬局の隣にあって、昭和40年代に現在地(北2条東2丁目)に移られたとのこと。メインの業務はホテルや飲食店などへの卸しで、最近はコロナのこともあり、通販にも力を入れられているとのこと。

村山商店さんに直接行ったらお米は買えますかという質問には、「もちろんです。量り売りもできますし、産地から直接入れているお米なので評判もいいですよ。配達もできますし、本州に送ることもできます。」と力強くお答えいただきました。

最近北海道のお米が人気で、本州からの引き合いも強く、良い商品を扱わせていただいているという実感があるようです。また、お米マイスターという難関な資格もとられ、お米は甘さ・粘り気・食感・香りなど品種によって違いがあるので、お寿司屋さんなどは握り方の好みがあるので、オーダーメイドでブレンドして試行錯誤しているとのこと。

「産地とのつながりも強いので、安定して商品が入ってくるのが大きいです。米の状況が悪くて市場で出回ってない時でも、長年の付き合いで優先的に入ってきて、商売をしっかりとさせていただいております。」と商売における信頼関係の大事さを話されておりました。

お米はよく食べますよとお腹をポンポンとされ、高3・中3・中1の息子さんがおられるので、お米の消費量がかなり多いと笑って話されていました。



お米を上手に炊くコツ!

炊く前にしっかりと時間をかけて浸水させる。夏場なら1時間、冬場なら30分くらい。お米は乾物なので、しっかりとこれで水分が入っていく。炊きあがりかふっくらとなります。

米穀小売 株式会社かね又村山商店
札幌市中央区北2条東2丁目1-15
TEL 011-221-0530
FAX 011-221-0531

ホームページ <http://kanemata-murayama.co.jp/>



オンラインストアはこちらから

清璋寺から

総本山知恩院での記念法要に行ってきました！

令和6年3月13日、全国浄土宗青年会主催「開宗850年慶讃法要」に参加して参りました。

今回檀信徒の皆様にご記入いただいた結縁交名紙を総本山知恩院で行われた慶讃法要の中で奉納させていただきました。

私事ではありますが、今年43歳になり43歳は法然上人が浄土宗をお開きになった年齢です。開宗850年という年に僧侶として43歳を迎え、まだまだ未熟の身ではございますが、これからも継続して清璋寺が檀信徒皆様の念仏道場の場であり続けられるよう日々精進努力してまいります。

本年中は、総大本山及び全国各地で法然上人のみ心に触れられる機会が多くございます。

是非足をお運びください。合掌。

清璋寺住職 太田光顯



清璋寺 札幌市手稲区西宮の沢5条1丁目19-35 TEL 011-668-5110

清璋寺は毎週火曜日を寺院閉館日としております。お参りの際は、お寺にお問合せください。

しろいし幼稚園から

すくすく育て“ほとけの子”

4月26日にしろいし幼稚園年長組の園児たちがお参りに来ました。

本堂で浄土宗宗歌「月かげ」と園歌（先代住職作詞）を元気に歌い、お花と灯りをささげられました。その後は副住職の話聞いて、本堂や骨仏など新善光寺の隅々まで見学していきました。

ほとけさまの教えを通じ、“いのちの大切さ”を知り、ありがとう・ごめんなさいが自然と言える素直で優しい「ほとけさまの子ども」をしろいし幼稚園では開園以来育んでいます。



学校法人新善光寺学園 **しろいし幼稚園**

〒003-0028 札幌市白石区平和通1丁目南6番16号 URL siroisi-pippara.ed.jp
TEL 011-861-4426 FAX 011-866-0707 E-mail siroisi-pippara@cyber.ocn.ne.jp

慈啓会から

介護予防センター旭ヶ丘

介護予防センター旭ヶ丘は、札幌市からの委託を受けて介護予防事業を担っている機関です。市内53か所に設置され、包括支援センターの役割を補完する介護予防の拠点として位置づけられています。当センターは山鼻地区を担当し、地区内にお住まいの約1万人の高齢者のみなさんが住み慣れた地域でいつまでも暮らせるように介護予防活動を展開しています。大きな役割として、「介護予防等の相談窓口」「介護予防教室の実施」「地域の介護予防活動の支援」といった3つが挙げられます。今回は、この3つの役割について簡単にご説明させていただきます。

① 介護予防等の相談窓口

介護予防活動や閉じこもりがちな高齢者に関する相談をお受けし、必要に応じて介護予防活動参加勧奨や他機関紹介を行っています。生活不活発による高齢者の健康への影響が課題となっていることから、閉じこもりがちな高齢者に対するアプローチは重要な取組であると言えます。

② 介護予防教室の実施

地区内の様々な会場で介護予防教室を開催しています。慈啓会病院や慈啓会老人保健施設の医療職などに協力を依頼し、講話をしていただくこともあります。令和5年度は、より多くの方の外出のきっかけとなるよう、「災害対策セミナー」や「木粉粘土工作」など幅広いテーマで開催し、多くの方にご参加いただくことができました。

③ 地域の介護予防活動の支援

山鼻地区には6つの運動自主グループがあり、地域の高齢者のみなさんが主体的に運営をしています。安定した活動を継続できるよう、活動状況の確認や助言等を行っています。他には、サロンや老人クラブなどに訪問し、介護予防活動を広める取組を行っています。

以上のように、様々な方法で山鼻地区における介護予防普及に取り組んでいるところですが、山鼻地区の高齢者人口や通いの場参加率を踏まえると十分であるとは言えません。今後も継続して山鼻地区の介護予防普及に取り組んで参ります。

【介護予防教室実施の様子】



山鼻公園での認知症予防を兼ねた運動



理学療法士による講話・運動指導



ウォーキング

【お問合せ】 慈啓会老人保健施設 電話：011-520-8085

札幌慈啓会総合相談室のご案内 ☎️ 0120-83-8291 お電話受付時間／8:45～17:00(土日・祝は除く)
E-mail info-jk@sapporojikeikai.or.jp

専門スタッフが保健・医療・福祉などのご相談に応じます。

相談無料

当山のお仏像を紹介します⑫ いっこうさんぞんぶつ **一光三尊仏** ぜんこうじによらい (善光寺如来) **印度由来編**

つきかげ 月影の間 こうどしよいん (広度書院) に安置されているお仏像について、今回から印度由来編・我が国由来編・造形編の3回にわたり、説明します。

このお仏像は、信州善光寺の絶対秘仏のご分身として奉安しております。本仏である



如来さまは、今から2500年ほど前、お釈迦さまが天竺(インド)におられた時に造られたと伝わっております。あるとき、月蓋長者の娘の如是姫が疫病にかかり生死をさまよっておりました。娘をなんとか助けたいと思った父は、お釈迦さまに相談しました。お



月蓋長者と如是姫

釈迦さまは、「私にもこの病を除くことは難しい。西の彼方におられる阿弥陀さまを誠の心で請いなさい」とお示しく下さいました。すると、長者のもとに阿弥陀さまが現れ、そのお姿を閻浮檀金で铸造したのが、善光寺如来さまです。

札幌の浄土宗寺院紹介④

りゅううん じ
龍雲寺

明治5年(1872)に建立され、14年後に龍雲寺と寺号公称されました。現在の本堂は昭和59年(1984)に建てられたもので、旧本堂は「北海道開拓の村」に移設されています。



イチョウの木が有名で秋には見事な色がつきます。

この5月に住職が交代し、7代目の住職となっております。



龍雲寺 札幌市北区篠路5条10丁目10-21

龍雲寺 札幌

検索

北縁 なんでも Q & A

いつも本誌にご意見ご質問などご投稿くださりありがとうございます。
札幌の長い冬もようやく終わり、一年で一番過ごしやすい季節となりました。
コロナ禍も終息ではないものの今年のGWは各地で行楽される人がたくさんいたよう
ですね。散策など、お寺のご近所にお越しの際は是非、新善光寺にも寄ってみてくだ
さい。
今回も皆さんも質問にお答えしていきます。

Q お寺の駐車場の横にある石の広場について教えてください

A ご質問の場所は、一般的に「枯山水」と呼ぶ砂や石だけで山や水の景色を表現した日本庭園の事です。精神統一すると、水ではないものも水に感じる事が出来るようになる、といった精神統一の修行法の一環として寺院などに設けられる庭園です。新善光寺の枯山水は「石庭」という呼称です。北海道は約半年ものあいだ積雪する地域なので、積雪の間はブルーシート等で養生をしています。本州のそのような趣を出すのはなかなか難しいところではありますが、春になって養生を外すと折を見てお寺の職員が専用の道具を用い、水の流れを表現しています。

脇にはベンチの準備もありますので、お天気の良い日にお参りと共に鑑賞ください。

Q 鐘撞きは除夜の鐘しかやっていないのでしょうか

A お寺の鐘は時間や法要の「シラセ」の役割を担っています。浄土宗では大きな鐘の事を「洪鐘」または「梵鐘」などと呼んでいます。洪鐘は①法要のとき、②時報（時鐘）、③除夜（除日の夜）、④非常のとき特別な事由のときなどにつきます。今では皆さん自身で時計を身に付けたり、携帯電話によって時間を確認する時代になりましたが、昔は不明瞭な時間算定法ではありましたが、お寺やお城などで時間を算定し鐘で知らせていたそうです。新善光寺では②の時報として午後5時（※）、③の除夜の鐘、④お寺で葬儀を行った際、出棺の時についています。除夜の鐘はお参りの方の厄災を除くため皆さんに鐘撞きをしていただいています。

除夜の鐘は夜間になり中々出かけられないなどの事情もあると思います。鐘撞きを体験されたい方がいましたら、お問い合わせください。

※ 時鐘に関しては、1月1日～春分の日の前日まで冬季の堆雪などを鑑みお休みしています。

〈東京別院 霊源寺より〉

永代供養墓完成のお知らせ

霊源寺には納骨堂があり、東京在住の新善光寺のお檀家様にもご使用いただいております。このたび、新たに永代供養墓を建立しました。元々供養塔が建っていましたが、だいぶ古くなってきており、破損も多く見受けられておりました。

そのようなことかとかからこの供養塔を丁寧に撤去し、上に安置していたお地藏さんは、新しく建てたお墓の横に安置いたしました。元々この霊源寺は「火葬寺」「無縁寺」とも、呼ばれ多くの方が埋葬されていたといわれております。そのようなことから安らかにという思いも込めて、寺院建築の大家である本間博先生の設計のもと、建立をいたしました。

どなたでも入ることができるお墓となっております。どうぞご興味のある方はお問い合わせください。見学は随時可能です。



東京別院霊源寺 検索

〈鴨々川ノスタルジア 2024 開催決定!〉

9月13日(金) 怪談朗読会 (新善光寺)

14日(土) お坊さんファッションショー (成田山新栄寺)

芸者衆の踊りを見る会 (新善光寺)

鴨々川ノスタルジア 検索

編集後記

暖かくなってきた今日この頃ですが、寺の周辺の様子を見ると、観光客も多く、コロナ禍前の状態に戻つつあります。昨年同様に10月頃に日帰り寺院参拝ツアーを計画しており、お盆やお彼岸の時などにお知らせいたします。

また、昨年以來寺報でも沢山お伝えしてきましたが、いよいよ来年6月に五重相伝を開かせていただきます。多くの皆さんにご参加いただけるように、これまで以上に周知していきたいと思っております。

(真海)

※新善光寺の日々の情報は各種 SNS にて公開しております。
どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。



ホームページ YouTube

新善光寺寺報
Hokuen 55
北 縁

発行 / 2024年5月発行

発行責任者 / 新善光寺住職 太田真琴

〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目 [TEL] 011-511-0262 [FAX] 011-511-4706

[ホームページ] <http://s-zenkoj.com> [Eメール] s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp